

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	周術期 ERAS/ステロイド管理下における食道癌術後 CRP 値の長期予後予測因子としての有用性
	研究目的	最近、食道癌周術期の炎症反応(術後 CRP 値など)が再発や予後に影響することが報告されています。炎症反応により免疫反応が抑制され、腫瘍増殖を引き起こすことが理由と考えられています。一方で、周術期の ERAS (enhanced recovery after surgery) やステロイド導入により術後炎症反応は抑制されてきました。このような管理下においても術後 CRP 値が食道癌の長期予後因子としての価値があるかは不明です。本研究では、ERAS・周術期ステロイド管理下での食道癌術後、CRP 値高値群と低値群を比較すると共に、長期予後との関連性について検討を行います。
	研究対象者	2011 年 1 月～2015 年 9 月に当院で食道切除術を受けた方 208 例 .1)組織学的に胸部食道扁平上皮癌, 2)術前化学療法施行例, 3)根治的リンパ節郭清施行症例, 4)根治的切除 (R0) を施行した症例を適格基準とした .
	研究期間	西 暦 2 0 1 8 年 8 月 2 3 日 ~ 西 暦 2 0 1 9 年 3 月 3 1 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	大島 貴
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	康心会汐見台病院・外科医員(がんセンター研究生) 神尾一樹